●各家学説こそ中国伝統医学の本質！

中医伝統流派の系譜

黄　煌（南京中医薬大学教授）／著　　柴崎英子／訳
Ａ５判　並製　344頁　定価：3,780円（本体3,600円＋税）

推薦の言葉

本書は従来の中医各家学説を礎としつつも著者独自の卓見をもって再構築し、整理された斬新な書であり、日本で初めて出版される各家学説の書である。しかも中国のみにとどまらず、日本・朝鮮の医学にまで言及してある。私はゲラを拝読して教えられるところが多くあった。日本でこの書が出版される意義はきわめて大きい。

本書は中国伝統医学の本質を学ぶうえで恰好の書である。日本の一読者として本書をお薦めすることができることは、私にとって光栄なことであり、求められるままあえて序文を固辞しなかったゆえんである。中国伝統医学、漢方に興味をもたれる方々が、一人でも多く本書を読まれることを願ってやまない。

北里研究所東洋医学総合研究所　小曽戸　洋

語り継がれる名医の臨床と学説

中国医学史に現れた13の流派と日本古方派・後世方派，朝医四象医学など海外の流派を含む計16の流派を，発生過程からその臨床的特徴まで実に詳細に解説する。中医学といえば，シンプルな姿をとった現代教科書を思い浮かべるが，中医学の実質はけっしてそのような単一の整然とした医学ではない。むしろ数多くの流派が複雑に絡み合った混沌の医学だという。その歴史から，我々は多くの臨床に役立つヒントを引き出す。中医学・漢方との付き合い方を教えてくれる衝撃的な本である。

ご注文は　FAX専用フリーダイヤルで　今すぐにFAX 0120－727－060

〒272-0822 千葉県市川市宮久保3－1－5　東洋学術出版社　電　話（047）371－8337　FAX 0120－727－060

著者の言葉

いわゆる流派とは、学術や芸術分野での派閥のことである。中医学には、個別的・経験的・地域的という固有の特性があるために、中医学に携わった歴代の名医たちは、複雑に入り組んだ数多くの流派に分かれている。しかし、後世流派の名称が統一されず、流派を区分するための基準さえも確立されなかったために、便宜的に以下のような区分方法が用いられている。

たとえば使用薬剤の薬性が寒熱攻補のいずれにあたるかによって、「温補派」「攻下派」「寒涼派」「滋陰派」などの流派が分かれる。また使用する処方の新旧によって、「経方派」と「時方派」あるいは「古方派」と「後世方派」とに分かれる。またどの医学体系を崇拝するかによって、「傷寒派」「温病派」に分かれたり、その流派が活動した地域によって、「易水学派」「丹渓学派」「河間学派」「孟河医派」「呉門医派」などに分かれる。あるいは特定の医学者の姓氏を冠した「李朱医学」「葉派」「曹派」、医学分類を名称に用いた「新安医学」「呉門医学」「嶺南医学」などがある。また家名を冠した「金元四大家」、「孟河四大家」の丁家・費家・馬家・巣家などや、得意とする専門分野名をつけた「紹派傷寒」「竹林寺婦科」などがあり、このほかにも『傷寒論』の配列に関する解釈の違いによって、「錯簡派」「維護旧論派」に分ける場合もある。また近代では、中医論争における意見の違いによって、「改革派」と「保守派」および伝統的中医学に一歩距離を置く「中西匯(かい)通派」などがある。

このように名称が統一されておらず、区分方法も一定していないという状況は、各医学者の学説を正しく認識評価するための妨げともなり、各医学者の臨床経験を共有および活用する際にも悪影響を与えかねない。このような現状を鑑み、中医学流派を概観するための小冊子を出版することの意義は大きいと思われる。

本書に紹介された16流派

通俗傷寒派／温疫派／温熱派／伏気温熱派／経典傷寒派／易水内傷派／丹渓雑病派／弁証傷寒派／経典雑病派／正宗派／全生派／心得派／民間医学派／日本古方派／日本後世派／朝医四象医学

目次

●通俗傷寒派
学術的特徴
広義の傷寒を研究対象とした
六経を強調している
民間の医療経験をうまく吸収した
宣伝と普及を重視した
代表的人物
通俗傷寒派初期の代表的人物、朱肱
臨床に精通していた陶華
傷寒夾証を重視した戈維城
夾虚傷寒の治療を得意とした張景岳
博く医学者たちの学説を集めて整理した張璐
温病学説をうまく取り入れた呉貞と韋虚谷
通俗傷寒派を集大成した兪根初および「紹派傷寒」

●温疫派
学術的特徴
温疫病を主要な研究対象とした
温疫の病因の特殊性を強調した
温疫には安定した基本病機があると主張した
治療は去邪を第一とした
代表的人物
熱病の師・劉完素
石膏を活用した繆仲淳
温疫派の第一人者呉又可
大剤による解毒を主張した余霖
河間を手本とした楊栗山
疫痧治療を得意とした陳耕道
伏邪の攻撃を主張した蔣宝素

●温熱派
学術的特徴
温病と傷寒の違いを強調した
新感温熱病の治療を得意とした
衛気営血弁証と三焦弁証を考案した
治療に緩急を用いた
養陰生津を重視した
開竅剤を活用した
湿治療を得意とした
代表的人物
温熱病の大家、葉天士
『湿熱病篇』で有名な薛生白
三焦弁証を提唱した呉鞠通
温熱学説を集大成した王孟英
『外感温病篇』を著した陳平伯

●伏気温熱派
学術的特徴
伏気から温病が生まれることを重視した
六経弁証を基準にした
陰を助け邪を追い出すための治療法を重視した
伏温証治

●経典傷寒派
学術的特徴
温熱派の理論を否定した
実効性を重視し、経方の使用を推奨し、軽剤を用いて即効性を追及することに反対した
代表的人物
『傷寒論』を固守した陸九芝
三焦学説を排斥しようとした惲鉄樵
『傷寒論』による温熱病治療こそが正統であると主張した章巨膺
扶陽を重視し、五段論を提唱した祝味菊
葉・呉学説を排斥しようとした謝誦穆

●易水内傷派
学術的特徴
病因のうち、正虚という要素に注目した
陰陽五行学説を強調した
補脾と補腎を得意とした
新たな処方の考案を提唱した
代表的人物
初期を代表する張元素
脾胃内傷学の創始者、李東垣
常に五臓弁証によって治療した薛立斎
五行制化論による治療を得意とした周慎斎
命門の火の補養を得意とした趙献可
形体に精を充塡させることを重視した張景岳

●丹渓雑病派
学術的特徴
気血の失調が疾病の基本病機であると考えた
気・血・痰・鬱の調整を得意とした
専用の処方にこだわらなかった
代表的人物
雑病学の祖、朱丹渓
陰血を重視した戴原礼
人参と黄耆で補気することを得意とした汪機
丹渓の気血痰鬱学説を強く提唱した王綸
丹渓の学説を応用して著書を著した虞天民

（以下略）